

神奈川県アレルギー疾患医療拠点病院の取組について (横浜市立みなと赤十字病院)

項目	取組内容	令和元年度事業計画
1 診療	医療機関相互の連携及び診療連携体制の構築	<p>病診連携医療機関と連携シートを用いた気管支喘息の病診連携を実施しています。発作を繰り返す喘息患者を紹介いただき、完全コントロールを達成した後は逆紹介し、半年～1年に1回は当院アレルギー科を予約受診いただきます。その都度、呼吸機能検査等を実施することによりコントロールの維持を確認しています。</p> <p>連携先の医療機関は、横浜市内のほか<u>県内全域での連携を進めます。</u></p>
2 情報提供	患者及び家族・地域住民に向けた適切な情報の提供	<p>患者やその家族、地域住民に対する情報の提供は病院ホームページで行っています。</p> <p>アレルギーセンターホームページにおいて、当センターにおける診療内容、診療実績、各種講演会の情報提供を行っており、各診療科のアレルギー疾患を1つのページで網羅することで患者様に見やすいホームページを心がけていますが、<u>情報面の充実等の改修を行い、更なる情報提供の充実を図ります。</u></p>
3 人材育成	医療従事者や保健師、栄養士、教職員等に対する研修等	<p>医療従事者向けの研修会等としては、みなとセミナー（年1回）、横浜みなと免疫・アレルギー講演会（年1回）、横浜市アレルギー懇話会（年1～2回）、横浜環境アレルギー研究会（年1回）、横浜吸入指導勉強会（年1回）を実施しています。</p> <p>教職員・児童福祉施設職員を対象としては、横浜市内を中心として各機関からの依頼に基づき研修会を実施しています（年間30回程度）。</p> <p>横浜市内を中心として上記事業を行っていますが、<u>県内全域を対象に事業を展開します（県民向け公開講座、研修会等）。</u></p>
4 研究調査	県内のアレルギー疾患の実情を把握するための調査	今年度は調査等の予定はありません。
5 助言	学校、児童福祉施設等が抱える問題への医学的見地からの助言や支援	「3. 医療従事者や保健師、栄養士、教職員等に対する研修等」参照
6	その他 (上記以外について)	<p>携帯電話、スマートフォンなどのIT通信機器を用いた気管支喘息の長期管理として、患者が自宅や職場で測定した呼吸機能をIT通信機器により当院にデータ送信し、悪化時に医師から患者に個別にアドバイスを送る喘息遠隔医療のシステム（Asthma Real-time Monitoring System: ARMS）を導入しています。</p> <p>また、過去の気象と喘息症状の関連から導き出した予測式を基に「喘息予報」の提供を行っています。</p>